



ニュースが

気になる!

全国の高校でラグビー人口が減少している。熱血教師がラグビーを通じて不良少年たちを更生させたテレビドラマ「スクールウォーズ」人気を反映して増えた時期もあったが、少子化に加え、ワールドカップ(W杯)での惨敗などもあって、競技人口は右肩下がり。2015、19年のW杯日本誘致に動く中、ラグビー界をどう盛り上げていくのか。

先月、橋下徹大阪府知事の出身校、大阪府立北野高で、OB会を中心としたラグビー部員獲得に向けたイベントが行われた。1987年度の全国高校大会に橋

減り続ける高校ラグーマン

高体連への加盟校数、登録人数の変遷

| 年度 | 加盟校数 | 登録人数 |
|------|-------|--------|
| 1991 | 1,582 | 57,826 |
| 1992 | 1,586 | 53,826 |
| 1995 | 1,501 | 42,366 |
| 2000 | 1,267 | 28,359 |
| 2005 | 1,241 | 29,773 |
| 2008 | 1,165 | 27,340 |

2008年度の加盟校数の上位、下位

| 順位 | 都道府県 | 加盟校数 | 登録人数 |
|----|-------|------|-------|
| 上位 | 1 大阪 | 122 | 2,230 |
| | 2 東京 | 85 | 1,923 |
| | 3 愛知 | 64 | 1,696 |
| | 4 埼玉 | 61 | 1,578 |
| | 5 神奈川 | 59 | 1,464 |
| 下位 | 43 鳥取 | 6 | 89 |
| | 44 佐賀 | 4 | 124 |
| | 45 香川 | 4 | 99 |
| | 46 島根 | 3 | 100 |
| | 47 福井 | 3 | 98 |

※高体連調べ

下知事も出場するなど、過去6度の出場を誇る伝統校も、今春の総体では、初めて他校との合同チームで参加せざるを得なくなるなど部員不足に悩んでいる。

全国高等学校体育連盟の登録人数は、91年度の5万7826人がピーク。ここ

ろが、2008年度は半数以下の2万7340人にまで落ち込んだ。都道府県別に見ると、08年度の加盟校数が最少なのは、福井県と島根県の3校。人数では鳥取県の89人(6校)だった。

07年度の全国大会島根県予選では、15人の部員を確保

合同チームだけの大会も

出来たのが江の川高(現石見智翠館高)1校だけ。結局、出雲高と松江高専の合同チームと壮行試合を行った。

日本ラグビー協会の前田嘉昭理事は「『きつい、汚い、危険』という『3K』のイメージがある。また、1995年のW杯でニュージーランドに145-17で大敗し、地上波の中継がなくなったことも、人気凋落の要因」と分析する。

ラグビーを通じて青少年の健全育成に取り組む元ラグビー日本代表の大八木淳史さんと親交のある清國祐二・香川大生涯学習教育研究センター長は、「苦勞せず、結果を求めたがる」現代の若者気質が反映しているとしたうえで、「野球や

サッカー、ゴルフのように、成功すれば、収入など得るものがあるスポーツを選ばせようとする親も多いのではないか」と指摘する。

こうしたラグビー離れに歯止めをかけようと、日本ラグビー協会と高体連ラグビー専門部では、活性化プロジェクトを作り、対策に乗り出した。2000年度から、全国大会には出場出来ないものの、合同チームでの県予選出場が認められ、05年度からは合同チームの全国大会も実施。部員を確保できない高校の選手にも、目標を持たせている。

また、サッカー同様、ユース世代の普及にも力を入れる方針で、前田理事は「7人制ラグビーが五輪競技の候補に挙がっている。高校で7人制を普及させることなども視野に入れ、活動を進めていきたい」と話している。(運動部 南恭士)